

# 瞳輝いて

## 目指せ全国制覇!!



やすあき  
鹿嶋 保彰くん (大宜)

保彰くんは関西高校野球部の2年生。関西高校は、3月23日から甲子園球場で開催される第77回センバツ高校野球大会に出場します。

保彰くんが野球を始めたのは、小学2年生のとき。お兄さん2人が野球をしていたことから興味を持ち始めたそうです。

小学校の頃から甲子園でプレーすることを夢見ていた保彰くんは、夢をかなえるため関西高校へ入学。

現在は、サードのレギュラーポジションを自分のものにするため、夜遅くまで練習に励み、帰宅するのはいつも夜中の12時近くになるとか。

今回の目標を聞いてみると、「昨年の中国地区の秋季大会で、宇部商業高校に8点差をひっくり返されて準優勝になったのが、悔しかった。その悔しさを甲子園で晴らしたい。『全国制覇』をねらいます。」と力強く答えてくれました。

40年ぶりの岡山県勢優勝目指してがんばれ!

### 展覧会のご案内

#### 「竹喬の表紙絵と挿絵」

2月11日(金)～4月24日(日)

『天皇の世紀』の挿絵をはじめ、雑誌の表紙絵など約150点を展示しています。



〒714-0087  
笠岡市六番町1-17  
Tel.63-3967  
ホームページ  
<http://www.city.kasaoka.okayama.jp/0013/0001.html>

この挿絵に添えられた竹喬の言葉には、「世にさかる花に念仏もうしけり」と言う芭蕉の句は、はなやかな姿に、却って仏心を寄せたのであろうか。春の風情、それはまた、哀愁のこころを生むのである」と、ある。

桜はあつという間に咲き、すぐに散ってしまう。竹喬は山桜の方を好んだが、スケッチによい時期を待っていたらすぐにさかりを逃してしまった、といったこともあったに違いない。最も輝かしい姿のうちに枯れてゆく時を感じとり、めぐる生命について思わずにはいられない画家である。

描かれている桜は幹ばかりで、画面には竹喬の字で「名残りの初代祇園桜」とある。現在京都の円山公園にある枝垂桜は二代目で、これは初代の種子より育てられたものだ。初代は明治維新の混乱の中で伐採されるところだったが、京都の近代化に重要な役割を果たした明石博高氏によって買い取られ、この地に移されてきたという。昭和の中頃までこの地で人々の目を楽しませていた。



### 「名残りの初代祇園桜」

小野竹喬 作

朝日新聞「天皇の世紀」挿画  
昭和44年4月15日掲載  
13.7×17.3cm

竹喬美術館の光彩 27



発行日/平成17年3月1日  
発行/笠岡市役所  
編集/まちづくり推進課  
〒714-8601 笠岡市中央町1-1  
Tel.69-2110

先日、一泊二日で北海道の登別温泉へ行ってきました。今年の北海道の冬は、近年にない大雪だそうです。そのため、一晩、車を外に置いておくと、雪が屋根まで積もり、雪かきをしないと車にも乗り込むことができませ

### 係から

2月15日から17日にかけて、チエコ共和国からサシャーツィ少年少女合唱団が来笠しました。滞在期間中、今井と陶山の小学校を訪れ、児童たちとミニコンサートなどで交流。また、ホームステイ先などを提供している笠岡みらい少年少女合唱団とその笠岡みらい少年少女合唱団との交流では、プレゼントされた浴衣を着て、とってもらったそうに写真を撮っていました。17日に保健センターギヤラクシホールで行われたコンサートでは、合唱や演奏、コミカルなパフォーマンス、そして、みらい少年少女合唱団との合同演奏で、来場した皆さんの観客を楽しませてくれました。

### 今月の表紙

印刷所/株式会社正文社印刷所 ☎66-1687

笠岡市ホームページ: <http://www.city.kasaoka.okayama.jp>  
メールアドレス: [machizukuri@city.kasaoka.okayama.jp](mailto:machizukuri@city.kasaoka.okayama.jp)



※この広報は再生紙を使用し地球環境にやさしい植物性大豆油インキで印刷しています。

100 古紙配合率100%の再生紙を使用しています